地域再生計画(地方創生道整備推進交付金)事後評価調査

都道府県名	長野県	事業実施主体	長野県 及び 長野県飯田市	地域再生計画名	飯田市「山・里・街の魅力あふれる豊かな地域づくり計画」
計画期間	平成27年度～令和3年度	評価責任者	飯田市企画部企画課 課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値		中間目標値		最終目標値		事後評価	達成状況	最終目標値の実現状況に関する評価			
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績						
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標1	年間間伐面積の拡大	420ha	H25	468ha	H29	417ha	500ha	R5	212ha	×	指標総数 達成数 5 2	○計画策定時には山へ木を残す切捨間伐で計画していたが、切捨間伐により森林内に残されている林地残材をバイオマス燃料等に活用する動きが出てきたため、伐採木を全幹搬出(枝条を含む)する搬出間伐に作業方法が変わった。これにより、従来の切捨間伐より木の搬出のための作業に手間等がかかり、作業量が減少した。 ○さらに森林の循環サイクルのため、搬出間伐から主伐・再造林に方針転換され、間伐面積が縮小傾向となった。 ○なお、山から搬出された材の量は、平成27年の8,455㎡に対し、令和5年は10,452㎡となり、林道整備の効果は現れている。
	指標2	観光入込客の増加 ・上村地区 ・登山客数	126,000人 5,900人	H25	132,000人 6,200人	H29	126,300人 5,050人	136,000人 6,400人	R5 R5	56,900人 6,690人	△		○上村地区を訪れる観光客数は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けている。令和5年度からは徐々に回復傾向が見られるものの、コロナ禍前の水準には至っていない。 ○新型コロナウイルス感染症の影響を差ほど受けていない登山客数については、市道及び林道の整備や南アルプスのエコ登山推進等の効果により、目標値を達成することができた。
	指標3	アクセス改善 ・林道松川入線 ・林道川合線	100分 140分	H26	95分 130分	H29	95分 130分	90分 130分	R2 R1	90分 130分	○		○林道整備やそれに通じる市道のアクセス向上により、目標を達成できた。
	指標4	体験プログラム利用者数	42,600人	H25	44,000人	H29	36,500人	45,000人	R5	23,950人	×		○新型コロナウイルス感染症の影響を受け体験教育旅行の中止が相次ぎ、体験プログラムの利用者は減少した。 ○一方、アフターコロナにおける新たなプログラムとして、(株)南信州観光公社と連携を図り、南信州在住者向けのマイクロツーリズム「南信州ふるさと再発見の旅」などを企画し実施した。
	指標5	林道保全(老朽化)対策推進率	0%	H26	5%	H29	4%	12%	R1	12%	○		○林道の安全・安心な通行確保のための老朽化対策により、目標値を達成できた。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標1												
	指標2												
③事業の進捗状況	事業名		整備量(その他の事業では取組内容)			事業の進捗状況に関する評価							
			計画	中間年度(H29)	最終実績(R5)								
	特別措置を適用して行う事業	市道整備事業(整備延長)	1,606m	746m	1,611m	○計画した延長を満たす整備を行うことができた。 ○市道上村150号線及び市道上村23号線の整備により、日本のチロルと称される下栗地区の「天空の里ビューポイント」、「そば処はんば亭」、「高原ロッジ下栗」等の地域内観光拠点施設を結ぶ周遊道路が整備された。 ○上村地区への観光入込客は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け目標を達成していないが、令和4年の観光入込客数37,600人から令和5年の56,900人へと回復傾向にあり、今回の整備効果は、今後の人流の回復に併せて現れてくるものと推察する。そのためにも、引き続き、上村150号線及び上村23号線に接続する道路の改良を更に進める必要がある。 ○市道尾林ハノ倉線及び市道中山線の整備により、三遠南信自動車道千代IC及び龍江ICから竜東地域へのアクセスが向上し、市内では比較的農家民泊等の受入先が多い地区へのアクセス性を高めることができた。 ○なお、コロナ禍で体験教育旅行の中止が相次いだことを受け、体験プログラム利用者数は目標値に到達していないが、今後も、地域が三遠南信自動車道の開通効果を楽しむため、両路線をはじめとする社会資本の整備・改良を更に進める必要がある。							
	林道整備事業(整備延長)	9,591m	4,028m	10,299m	○計画を上回る整備を行うことができた。 ○林道松川入線、林道押の沢線及び林道川合線の整備により、木材搬出の安全確保や森林整備、間伐等作業の効率化を図ることができた。 ○なお、搬出間伐から主伐・再造林へと作業方針が転換されたため、年間間伐面積は拡大していないが、山から搬出された材の量は増加しており、林道整備の効果は現れていると評価する。 ○引き続き、法面構造物の劣化による崩落や落石対策のための安全対策が必要である。 ○林道御池山線、林道赤石線及び林道東沢線の整備により、登山者の安全な通行が確保され、登山客数の目標達成を果たすことができた。今後も更なる安全確保のための対策が必要である。 ○林道千遠線の開通により、遠山地区と千代地区間の命を結ぶ災害迂回路が確保され、災害時の孤立解消、災害時の物資輸送などの面で整備効果が期待される。 ○今後更なる安全確保のための対策を実施することで、大自然の中で沢登りが体験できる秘境「万古(まんご)溪谷」へのアクセスが改良され、天然資源に親しむ機会の提供が期待できる。								
	うち林道の保全対策4路線	187m	32m	187m	○計画した林道の保全対策(橋梁保全)により、通行の安全確保と森林整備が円滑に進められた。今後も橋梁や隧道の点検・診断を進めていく中で、健全度の悪い箇所から保全整備を行っていく必要がある。								

③事業の進捗状況	事業名	整備量(その他の事業では取組内容)			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度(H29)	最終実績(R5)	
その他の事業	(1)-① 森林ふれあい事業『松川の清流と自然を訪ねて』	森林自然環境の中で楽しみながら、森林とふれあえるイベントを実施			○こどもたちを中心に広く市民の方が森林に触れる機会や林業体験(林業・木材市場見学、小水力発電見学、丸太活用教室、苔テラリウム教室、間伐・枝打ち体験、リースづくり教室等)に参加していただく機会を増やし、森に親しみ地域の魅力を感じてもらうことができた。また、森林や林業に関心を持ってもらうことで、林業の担い手づくりや人材育成につないでいくことができた。
	(1)-② 飯田市育樹祭	実体験を通じて森林整備や治山事業の大切さを学ぶ機会とする			○水源の涵養や土地の保全など多面的な機能を担っている森林資源を保全することや、みどり豊かな住みよい郷土づくりを推進するため、将来の担い手であるこどもたちや地元関係者とともに、森林の整備(植樹・間伐)を行い、森林を守り育て、次の世代に引き継ぐことの大切さを伝える機会として、飯田市育樹祭を実施することができた。
	(2) 南信州グリーンツーリズム推進事業	農村資源を生かしながら、農家民泊や市民農園など総合的なグリーン・ツーリズムを推進			○株南信州観光公社と連携し、体験教育旅行における農家民泊を始めとする飯田を楽しむ体験プログラムを提供しつつ、受入体制づくりを進めた。 ○農家民泊受入農家等の個人客やインバウンド対応のため研修会を開催するなど支援に取り組んだ。 ○市内にシードル特区を活用した農業体験民泊施設が運用開始した。この施設は、農業体験で収穫等を行いシードルを飲むことができる民泊施設であり、南信州飯田における体験農業の拠点の一つになっている。 ○また、シードルの生産量も増えており、シードルを活用したグリーンツーリズム交流事業を更に発展させ有効活用するため、R6年度から飯田市やNPO国際りんご・シードル振興会も交え、産官民協働による「公民共創ワークショップ」に取り組んでいる。
	(3)-① 山岳エコツーリズムの育成	登山者の動向把握、山岳資源の保全と活用のルール検討、登山案内所機能の整備、宿泊や交通等との連携			○本市では、人々の生活や文化、自然環境や景観との共存を図りながら、エコツーリズムの考え方に基づいたエコ登山や、手軽ながらも満足度の高い山岳高原観光を推進している。 ○関係団体と連携し登山相談所の開設により、安全登山の啓発や情報提供を行うほか、エコ登山の推進として携帯トイレの無料配布を行っている。
	(3)-② 地域観光プラン作りの推進	飯田市及び南信州全域を対象に、地域資源(人、もの、場所、こと)を掘り起こし、地域の魅力を発信するための観光プラン作りを行う			○地域、関係団体と連携して、飯田の自然、歴史文化、伝統芸能等、飯田ならではの素材、地域資源に触れていただくツアーを実施し誘客を図った。 ○特に、遠山郷では、「秋葉街道青崩峠の古道」や「遠山の霜月祭り」といったマイクロツーリズムをも意識したツアーを企画し実施した。
計画外で独自に実施した事業	宇宙教育推進事業「宇宙留学サマーキャンプ」	遠山郷においてH28から小学生を対象とした宇宙教育に関する2泊3日の集中講義を開催			○宇宙留学サマーキャンプを実施し、宇宙教育に関する学習だけでなく集団での共同生活における小学生のコミュニケーション能力等の向上がみられるとともに、遠山郷の自然や資産に触れる機会につながり、開催地区との交流も行われた。
④評価方法	必要な調査を実施し状況を把握するとともに、外部有識者を招聘しての地域再生計画事後評価委員会を開催し、事業の実施状況や最終的な数値目標の達成状況を踏まえた事後評価及び今後の取組に関する検討を行った。				
⑤事後評価の公表方法	市ウェブサイトへ掲載				
⑥計画全体の総合評価	<p>○林道整備事業の一部工事が繰越事業となり、事業完了まで2カ年延長したが、整備量としては、計画した事業を着実に実施することができている。</p> <p>○5つの数値目標のうち2つの目標は達成した。施業方法の変更や新型コロナウイルス感染症の感染拡大による交流や人流の減少などの外的要因により3つ数値目標が達成できていないが、今後、その効果が現れてくるものと評価する。</p> <p>○令和6年8月23日に開催した本計画に関する事後評価委員会において、外部有識者からは、次のとおり評価をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南信濃地区は、特に降雨による災害、土砂災害が度々発生する地域で、過去の災害では、度々孤立が発生している。今回の林道千遠線の整備は、防災・減災対応として非常に有用であり、評価できる。また、地域の重要な産業である観光産業の振興にも寄与する道であるため、今後も取組を進めていただきたい。 ・林道赤石線については、エコ登山や日本百名山登山等で登山客数が増えている現状に即した整備で非常に有用であった。 ・整備された市道上村150号線及び市道上村23号線は、県内外からの山道の運転に慣れていない観光客等の通行が多い道であり、今回の整備で地元住民とのすれ違い等がスムーズに行えるようになった。新型コロナウイルス感染症等の影響で観光入込客は目標値に達していないが、今後、観光客等の増加が見込まれるため、引き続きご協力をいただきたい。 ・林業の間伐面積が目標値に至らなかったが、施業の方法が変わったためであり、今後は木材を搬出することが林業の目標となる。計画の評価には面積だけではなく、搬出量も表記することが適切であり、この観点から、今回の交付金による林道整備は効果があったと評価する。また、山に作業へ入る際は、アクセス改善だけではなく、安全に通行できることが大切である。 ・林道松川入線における老朽化した橋の補修や改良工事が進んだことで、通行の安全が確保され、現地への時間短縮や森林整備の効率も向上した。 <p>○以上のことから、本交付金事業の道整備による地域の資源を有効に活用した産業振興と生活環境の改善という目的は概ね達成されたものと評価する。</p>				
⑦今後の方針等	<p>○コロナ禍の影響により交流人口の増加には困難な状況であったが、本計画による市道と林道の整備により今後の効果発現が期待できることから、引き続き、市道と林道の整備を進め、支援措置によらない独自の取組を継続して行い、関係人口、交流人口や定住人口の増加、地域産業の振興を通じた地域の持続的発展の実現を目指す。</p> <p>○あわせて、複雑化・多様化する社会課題に対して、適切なデジタル技術を活用し、誰もがその利便性や恩恵を享受できるよう、高機能林業機械の導入、ドローンの活用によるスマート林業の取組推進、オンライン登山届、遭難者の位置特定のためのシステム導入による安全・安心な登山の実現を目指すなど本交付金により整備した社会資本の維持管理のみならず、新たな取組を重ねて行く方針である。</p>				